

# 医学教育分野別評価 北里大学医学部医学科 年次報告書 2024(令和6)年度

医学教育分野別評価の受審 2022(令和4)年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.34

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

## はじめに

本学医学部医学科は、2022(令和4)年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2023(令和5)年10月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36を踏まえ、2024(令和6)年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022(令和4)年10月22日～2024(令和6)年3月31日の期間に、「評価報告書(2023(令和5)年9月15日付)」の指摘事項を踏まえ実施した教育活動について報告を行うものである。

## 1. 使命と学修成果

領域1.4における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、使命と学修成果の策定に学生を含む学内外の教育に関わる主要な構成者が参画する仕組みを考える。

また、使命と学修成果を学内だけでなく、広く学外にも周知する仕組みを考える。

### 1.1 使命

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点(特色)

- ・学祖・北里柴三郎博士の意志を継ぐ「建学の精神」をもとに、医学部の使命を基本理念として掲げ、医学教育を実践している。

##### 改善のための助言

- ・大学の構成者だけでなく、医療と保健に関わる分野の関係者にも使命を確実に周知すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「建学の精神」およびそれに基づく医学部の使命・基本理念は大学案内のパンフレットやホームページに記載しているが、医療と保健に関わる分野の関係者の方々により一層周知するためにポスターなど紙媒体を使った手段など検討していきたい。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・基本理念に「医学研究の推進」、「国際貢献の推進」を明示している。

##### **改善のための示唆**

- ・なし

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

今後も社会情勢などを鑑み、本学部に求められることを定期的に検討し、本学部の使命の在り方を考えていきたい。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **1.2 大学の自律性および教育・研究の自由**

### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・教育に関わる教職員および管理運営者が、組織として自律性を持って教育施策を構築している。

##### **改善のための助言**

- ・なし

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

教育委員会、カリキュラム委員会、教育プログラム評価委員会など教育関係の各種委員会において、学生および教職員からのアンケートなどから様々な立場からの意見を吸い上げる仕組みを設け、大学の自律性および教育・研究の自由を推進・向上させる。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 01 2023(令和 5)年度カリキュラムに関するアンケート (学生対象) 集計結果
- ・資料 02 2024(令和 6)年度カリキュラムに関するアンケート (学生対象) 集計結果
- ・資料 03 2023(令和 5)年度カリキュラムに関するアンケート (教員対象) 集計結果
- ・資料 04 2024(令和 6)年度カリキュラムに関するアンケート (教員対象) 集計結果

## **質的向上のための水準**

### **特記すべき良い点 (特色)**

- ・「医学研究入門Ⅱ」、「学生医学論文」では、学生が自ら研究室を選び、自由に最新の研究成果を探索・利用することができる。

### **改善のための示唆**

- ・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

「医学研究入門Ⅱ」、「学生医学論文」など、学生が自ら研究室を選び、自由に最新の研究成果を探索・利用できる形は整っているが、残念ながら自由参加の「学生医学論文」では参加者は少数にとどまっている。今後は、「学生医学論文」への参加者が増えるような仕組みを検討したい。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **1.3 学修成果**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点 (特色)**

- ・学修成果として、9項目のコンピテンスおよび69項目のコンピテンシーを掲げている。

#### **改善のための助言**

- ・学生がとるべき「適切な行動」は学生配付用の冊子には記載されているが、学則・行動規範等にも記載すべきである。
- ・学内外の関係者に学修成果を確実に周知すべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

学生がとるべき「適切な行動」を来年度の学則・行動規範等にも記載するようにする。また、学

修成果として、9項目のコンピテンスおよび69項目のコンピテンシーは既にホームページに記載しているため、ホームページの閲覧数を増やす工夫をすると同時に、紙媒体を使うなど学内外の関係者に学修成果を確実に周知する方法を検討する。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

##### **改善のための示唆**

- ・卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果を関連づけることが望まれる。

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果を関連づけるため、教育員会と卒後教育委員会は定期的に合同で卒前卒後委員会を開催している。今後は学修成果内容を具体的に関連づける作業を行うことを検討する。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料05 第1回卒前・卒後教育委員会合同会議議事録

### **1.4 使命と成果策定への参画**

#### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

##### **改善のための助言**

- ・使命と学修成果を策定する組織を定め、これらの策定・見直しを行う際には、学生を含む教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

現行の学修成果の策定には学生と教職員が関与したが、残念ながら少数であった。次の学修成果

の改訂の際には、学生と教職員に分野別認証評価の意義を周知し、出来るだけ多くの学生と教職員が学修成果の策定に関与・参画するような仕組みを考える。

また現行の「使命」は一部の教員しか関与していないので、こちらも学修成果の策定同様に、出来るだけ多くの学生と教職員が学修成果の策定に関与・参画するような仕組みを考える。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 06 2022 年度 Advanced FD 講演会実施概要（教授会資料）

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・使命と学修成果の策定・見直しを行う際には、他の医療職、患者代表、地域医療の代表者などを含む広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

本学部では外部者とのコミュニケーションをとる仕組みがほとんどできていない。まずはどのような手段を用いて外部者とのコミュニケーションをとることができるかを検討したい。次に、具体的に他の医療職、患者代表、地域医療の代表者などを含む広い範囲の教育の関係者への「使命」などの周知や意見を聴取の手法を検討する

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **2. 教育プログラム**

領域 2.1 における「改善のための助言」を受け、医学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に合わせたカリキュラムの見直しを図っている。領域 2.4 における「改善のための助言」を受け、1 年次の早期体験学習 I から衛生・公衆衛生学の臨床実習まで行動科学の要素を意識して、学年横断的に行動科学を基本とした実習を実施し、さらに行動科学のコマ数を増加させた。また、臨床実習での実践も拡充して行く予定である。領域 2.5 における「改善のための助言」を受け、臨床実習において CC-EPOC の導入を進め、診療参加型臨床実習の充実を図りつつある。領域 2.7 における「改善のための助言」

を受け、教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会への学生への参加を促している。

臨床実習での EBM の充実、医行為の確定や実習期間などについての検討は今後の課題である。

## 2.1 教育プログラムの構成

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・「器官系別総合教育」、医学部生、薬学部生、看護学部生、医療衛生学部生が参加して多職種連携教育を行う「オール北里チーム医療演習」など、学修意欲を刺激する科目を設けている。

#### 改善のための助言

- ・アウトカム基盤型教育をさらに進めるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年改訂版に基づき、現行の教育プログラムを見直す作業を実施している。その結果、「IT 情報・科学技術を活かす能力」に対応すべく、2024(令和6)年度第1学年に「データサイエンス・AI 基礎」を、また基礎医学と臨床医学とを統合、学修意欲を刺激する科目として「臨床入門」のカリキュラムを新たに導入することとした。今後ディプロマ・ポリシーを見直すと共に、アウトカム基盤型教育の徹底のためにマイルストーンを設定することを検討していく。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 07 第47回カリキュラム委員会議事録
- ・資料 08 2024(令和6)年度第1学年シラバス データサイエンス・AI 基礎
- ・資料 09 2024(令和6)年度第1学年シラバス 臨床入門

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・テュートリアル教育で生涯学習に繋がる教育を行っている。

#### 改善のための示唆

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

現行のディプロマ・ポリシーの「知的探究と自律的学習」の中にも、「生涯にわたり学習する必要性を理解し、方法を身につける。」が掲げられている。生涯学習を促す教育として、チュートリアル教育や早期体験学習 I などを実践しているが、それに加えて、毎年新入生入学時に DP についての説明を実施し、生涯学習の必要性を説いている。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 10 2023(令和5)年度 医学部新入生オリエンテーション資料 (DP)

## **2.2 科学的方法**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点 (特色)**

- ・2年次において医学研究に関する講義とグループワークを行う「医学研究入門Ⅰ」と、3年次における研究室配属を行う「医学研究入門Ⅱ」、さらに自由選択制の「学生医学論文」を設け、医学研究の手法を教育している。

#### **改善のための助言**

- ・系統立てた EBM 教育を行い、臨床実習においても学修・実践させるべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

臨床実習での EBM 教育の充実に向けて臨床実習検討委員会でも検討を行う。その第 1 歩として CC-EPOC を用いて学生の学修記録の充実を図ることとして導入に向けて調整をしている。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 11 第 63 回臨床実習統括委員会議事録

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点 (特色)**

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

3年次に実施している研究室配属では先端的研究に触れる良い機会であるが、実施期間のみならず、早い時期から研究に触れる機会を設けるよう、FDを行う。学生が複数年にわたって研究を行う学生医学論文の選択者は多くはないが、学会発表の機会は増えており、さらなる充実を図る。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 12 教育委員会資料 学生医学論文に係る学会参加

## **2.3 基礎医学**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・基礎医学の導入と統合を目的として、「細胞生物学」や「統合基礎医学」を設けている。

#### **改善のための助言**

- ・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

教育プログラム評価委員会でのプログラム評価の一環として、科目が適切に運用されているか検証を続ける。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 13 第 44 回教育プログラム評価委員会議事録

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・科学的、技術的、臨床的進歩をカリキュラムに十分に反映させることが望まれる。
- ・現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを定義し、カリキュラムに十分に反映させることが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

○ここ数年の ICT 技術の進歩を踏まえて AI に関するカリキュラムを開講することとし、2024(令



和6)年度入学生から開始とした。そのほか、カリキュラム委員会が中心となって、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを定義し、FDなどで得られた意見も参考に必要なカリキュラムの構築を検討して行く。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料01 カリキュラム委員会議事録 (2.1 資料01 と同じ)
- ・資料02 2024(令和6)年度シラバス (2.1 資料02 と同じ)

## **2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点 (特色)**

- ・医療倫理教育として、「医学原論・医学原論演習」を設けていることは評価できる。

#### **改善のための助言**

- ・行動科学教育を系統立てて行い、臨床実習にも導入し、充実させるべきである。
- ・医療倫理教育を高学年でも充実させるべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

行動科学の概念を実践に十分に活かせるよう、2023(令和5)年度から実習前の事前学修のコマを増やしている。1年次の早期体験学習 I から衛生・公衆衛生学の臨床実習まで行動科学の要素を意識して、学年横断的に行動科学を基本とした実習を実施している。第2学年から第4学年までの「行動科学・医療面接」では経年的にコマ数を増やし、さらなる充実を図ることとしていく。今後ポートフォリオを導入して、低学年から高学年まで系統的に評価できるように活用を図る。また、他の科目の臨床実習でも動機付け面接や行動変容を意識した患者指導などに学生が取り組めるよう検討していく。

医療倫理に関しては4年次の臨床実習入門でも取り入れており、今後臨床実習でも機会を設けることを検討する。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料14 行動科学・医療面接WG Feb 2023 議事録
- ・資料15 行動科学・医療面接事前学修案
- ・資料16 2024(令和6)年度第2学年シラバス 行動科学・医療面接
- ・資料17 2024(令和6)年度第3学年シラバス 行動科学・医療面接

- ・資料 18 2024(令和6)年度第4学年シラバス 行動科学・医療面接
- ・資料 19 2023(令和5)年度第5学年シラバス 衛生・公衆衛生実習
- ・資料 20 2024(令和6)年度第5学年シラバス 衛生・公衆衛生実習
- ・2023(令和5)年度臨床実習入門時間表

## **質的向上のための水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための示唆**

- ・現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測される内容についての教育を十分に行えるよう全体としての連携を図り、カリキュラムを調整することが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

2024(令和6)年度1年次より「データサイエンス・AI基礎」を開始した。その他社会や医療システムにおいて必要になると予測される内容について、FDなどで議論を深めていく予定である。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 07 第47回カリキュラム委員会議事録
- ・資料 08 2024(令和6)年度第1学年シラバス データサイエンス・AI基礎

## **2.5 臨床医学と技能**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための助言**

- ・卒業後に適切な医療的責務を果たせるように、カルテ記載を含め、診療参加型臨床実習を充実させるべきである。
- ・臨床実習において修得すべき医行為を定め、臨床技能・態度を確実に修得させるべきである。
- ・重要な診療科での臨床実習期間を十分に確保すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

臨床実習統括委員会からの提案により、臨床実習ではカルテ記載を必ず行うように臨床系の各教育単位に伝えており、実践しつつある。

診療参加型臨床実習の充実に向け、まずは臨床実習開始前に十分な技能習得の時間を増やすこととした。2023(令和5)年度より、3年次の最後に、生理学で学んだ心電図や血圧の理論を復習しつつ実際に測定するコマ(臨床技能)をトライアルとして導入した。

2023(令和5)年度より、4年次前期に基本的臨床手技を小グループで実践する時間を設けた。

臨床実習統括委員会において臨床実習で修得すべき医行為を定め、実践して行くことを検討していく。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 22 2024年度第3学年シラバス 内科学総論
- ・資料 23 2023年度第3学年「内科学総論」臨床手技スケジュール
- ・資料 24 2024年度第4学年シラバス 内科学総論
- ・資料 25 内科学総論(基本的臨床手技)資料

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点(特色)**

- ・1年次に「体験当直」で医療の現場や患者と接する機会を設けている。

#### **改善のための示唆**

- ・全ての学生が早期から患者と接する機会を持つカリキュラムの構築が望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

2年次での早期体験学習Ⅱでも医療施設、介護施設などでの実習を中心とし、患者と接する機会を増やしている。4年次の臨床実習入門では病棟実習を行い、患者と対話する機会を持つ。3年次での患者接触の機会について、今後検討をしていく。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間**

### **基本的水準**

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学を適切な関連と配分に関して、教育プログラム評価委員会でも検討を参考に、さらに適切なものとなるよう、検討をして行く。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・「細胞生物学」や「統合基礎医学」で基礎医学の水平的統合教育を実践している。
- ・「器官系別総合教育」で基礎医学と臨床医学の垂直的統合教育を実践していることは評価できる。

### 改善のための示唆

- ・「統合基礎医学」を拡充し、水平的統合教育をさらに推進することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024(令和6)年度開講のプログラム（臨床入門）では、基礎医学（解剖学）と臨床医学とを結びつける統合教育カリキュラムを導入する。さらに水平的統合教育に関して導入を検討していく。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 09 2024(令和6)年度第1学年シラバス 臨床入門

## 2.7 教育プログラム管理

### 基本的水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・カリキュラムの立案はカリキュラム委員会が、実施は教育委員会が担当している。

#### **改善のための助言**

- ・カリキュラム委員会は教育カリキュラムの立案に責任と権限を持つとともに、本委員会への学生の参画を推進すべきである。
- ・教育カリキュラムの実施に責任と権限を持つ教育委員会に学生が参画すべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

カリキュラム委員会への学生の参画を促し、2023(令和5)年度および2024(令和6)年度は、各回に学生が参画することができた。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 26 第 44 回カリキュラム委員会議事録

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

##### **改善のための示唆**

- ・カリキュラム委員会に他の医療職や患者代表など広い範囲の教育関係者を含むことが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

カリキュラム委員会に学生の参画を促すことはできつつあるが、他の医療職や患者代表など、広い範囲の教育関係者を含むまでには至っていない。今後 2025(令和7)年度には広い範囲の教育関係者を含むことができるように検討していく。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **2.8 臨床実践と医療制度の連携**

### **基本的水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための助言**

- ・卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果を関連づけ、卒前教育と卒後の教育・臨床実践の連携を適切に行うべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

2024(令和6)年度に予定している JCEP の評価に向け、研修医の指導に関しても振り返る機会を設けている。卒後教育委員会に卒前の教育委員会委員も参画しているが、卒業時の学修成果と卒後研修終了時の学修成果との関連付けを具体的に行うシステムを構築していく。2024(令和6)年度後半から実施予定の CC-EPOC の成果と PG-EPOC のデータを検証していく。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 11 第 63 回臨床実習統括委員会議事録

## **質的向上のための水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための示唆**

- ・卒業生が将来働く環境からの情報や地域や社会の意見を取り入れ、教育プログラムの改良を行うことが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

卒業生が勤務する研修病院などにアンケートを実施し、卒業生が本学のディプロマ・ポリシーを満たしているかの調査を行う。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### 3. 学生の評価

「チーム医療演習」において、ルーブリックを用いた形成的評価を行っていること、および、「北里賞」・「北島賞」をはじめとする成績優秀者への表彰制度を設け、学修を促進させている点でご評価頂けた。一方、臨床実習での技能・態度評価、形成的評価や評価結果に対する疑義申し立て制度に関して、ご助言を頂いた。

今後、種々科目ごとの特性を考慮して、適切な評価方法を構築し、学生に対して明示できる仕組みづくりが肝要と考える。

#### 3.1 評価方法

##### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための助言

- ・臨床実習での技能・態度評価は方針を定め、確実に実施すべきである。
- ・科目担当者以外の教員や外部の専門家の意見を入れて、評価を吟味すべきである。
- ・評価結果に対する疑義申し立て制度を構築し、周知すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024(令和6)年3月に臨床実習統括委員会内で協議して、CC-EPOCを段階的に導入することを決定した。2024(令和6)年7月の教育委員会での承認後、教授会でも承認された。2025(令和7)年10月に、教員に対してCC-EPOC導入に関する説明会を実施し、同年10月より一部の項目の導入開始予定である。今後は、使用する項目を増やすことを計画している。また評価方法に関しては、FD委員会で本年度の評価方法に関するAdvanced FDを2024(令和6)年度中に実施予定である。

総合試験問題、解答への異議申し立てはすでに行われている。他の定期試験に関する異議申し立てに関しては、今後の検討課題である。

##### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 27 第62回臨床実習統括委員会議事録
- ・資料 11 第63回臨床実習統括委員会議事録
- ・資料 28 第64回臨床実習統括委員会議事録
- ・資料 29 第65回臨床実習統括委員会議事録

##### 質的向上のための水準

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

- ・評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・外部評価者の活用をさらに進めることが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会において、カリキュラムに関する各学年アンケートを実施して、学生の声を吸い上げている。また、同委員会は、拡大教育プログラム評価委員会（他大学専門家、学内他学部専門家、病院協会医師（卒業生勤務病院）らが委員）を実施して、カリキュラムの評価、評価方法に関する評価を頂いている。また、IRでの各科目試験結果分析、入試選択受験科目と試験結果等の関連性を分析して、現状カリキュラムへの盛り込み検討を教育プログラム評価委員会で行っている。今後も活発なご意見を頂き評価方法の信頼性の向上と、妥当性を確認して、明示していく。また、指定高校推薦学校等からの委員の選出も今後視野に入れて、外部委員からの評価を進めていく。臨床実習に関しては、CC—EPOCを導入して、評価方法の変更を行う。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 30 51 回教育プログラム評価委員会議事録
- ・資料 27 第 62 回臨床実習統括委員会議事録
- ・資料 11 第 63 回臨床実習統括委員会議事録
- ・資料 28 第 64 回臨床実習統括委員会議事録
- ・資料 29 第 65 回臨床実習統括委員会議事録

## 3.2 評価と学修との関連

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・第 5 学年における「チーム医療演習」において、ルーブリックを用いた形成的評価を行っていることは評価できる。

#### 改善のための助言

- ・目標とする学修成果と教育方法・評価方法の整合性を定期的に検討すべきである。



- ・学生が効果的な学修を行えるよう、形成的評価を適切に実施すべきである。
- ・臨床実習においては、ポートフォリオ、MiniCEX や 360 度評価などの活用を推進すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

早期体験学習Ⅰ（第1学年）、早期体験学習Ⅱ（第2学年）では、ルーブリックを活用したポートフォリオ評価を実施している。また、一部科目では、形成的評価を目的としたフィードバックを開始している。評価方法を再考するために、FD委員会でAdvanced FD（2024(令和6)年10月10日予定）を企画している。これを通して、学習成果と教育方法、評価方法の見直しを行う土壌を醸成する。2024(令和6)中に臨床実習統括委員会内で協議して、段階的に導入することを検討する。2024(令和6)年度中に、教員に対してCC—EPOC導入に関する説明会を実施し、同年10月より一部の項目の導入開始予定である。学修ポートフォリオを活用した学修評価を把握して、DPとの整合性を検討する。今後は、使用する項目を増やすことを計画している。

加えて、評価方法に関しては、FD委員会で本年度の評価方法に関するAdvanced FDを2024(令和6)年に実施予定である。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 27 第 62 回臨床実習統括委員会議事録
- ・資料 11 第 63 回臨床実習統括委員会議事録
- ・資料 28 第 64 回臨床実習統括委員会議事録
- ・資料 29 第 65 回臨床実習統括委員会議事録

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・「北里賞」・「北島賞」をはじめとする成績優秀者への表彰制度を設け、学修を促進させている。

#### **改善のための示唆**

- ・試験の回数・日程・方法を適切に調整することが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

学生アンケートより、授業、試験の負担が大きいと回答が多かった科目のブロック化、科目の分割（第1学年後期と第2学年前期）等を行なった。試験日程の見直しも行き、1科目/日原則を

2科目/日を可能とし、試験日程を、学生自身達が検討する方法の具体的な検討を開始する。今後も試験日程に関して、学生の意見を取り入れながら検討していく。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料01 2023(令和5)年度カリキュラムに関するアンケート（学生対象）集計結果

### **4. 学生**

「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、関係各部署で改善策を検討している。入学方針と入学選抜に関しては、選抜方法とアドミッション・ポリシーや使命との関連の検討が今後の課題である。学生の参加については、使命の策定、教育プログラム管理、学生に関する諸事項を審議する委員会にどのような形で参画させるかが今後に向けての課題である

#### **4.1 入学方針と入学選抜**

##### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・アドミッション・ポリシーに基づいて多様な入学者選抜を実施している。

##### **改善のための助言**

- ・2018年度に文部科学省から「医学部医学科の補欠合格者の繰り上げ合格決定において、性別・年齢により不適切に差異を設けている」との指摘を受けた。これを受けて、2019(令和元)年に大学基準協会から、2016(平成28)年度における「適合」判定が取り消され、「不適合」への変更通知がなされた。そこで、「第三者委員会」や「入学試験検証委員会」などの調査・報告をもとに改善に取り組み、2019(令和元)年度に文部科学省から入試制度の改善が認められたとの通知があり、また、2020(令和2)年度の大学基準協会による追評価でも「適合」と認定された。今後においても適切な入学者選抜を実施し、社会的説明責任を果たすべきである。

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

入学者選抜の方針および方法については、毎年検討を行っている。現在も入学者選抜の検証を継続して行っている。以上の活動は今後も継続的に行っていく予定である。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料31 2023(令和5)年度第1回入試委員会記録（抄）

- ・資料 32 2025(令和)7年度医学部入学試験計画
- ・資料 33 2022(令和4)年度入学試験検証委員会検証報告書

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・アドミッション・ポリシーの見直しが毎年行われている。

#### **改善のための示唆**

- ・選抜と、医学部の使命ならびに学修成果との関連を検討することが望まれる。
- ・入学決定に対する疑義申し立て制度を採用し、明示することが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

選抜と医学部の使命ならびに学修成果との関連については、IR 室の分析結果に基づき教育委員会において検討している。また、毎年 IR 室は教授会で分析結果を発表している。

入学決定に対する疑義申し立て制度については、医学部単独で決定できないものであり、北里大学全学の入試センターと今後協議し、その採用について検討していく予定である。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 34 2023(令和5)年度教育 IR 室活動報告

## **4.2 学生の受け入れ**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための助言**

- ・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

地域枠に関連して入学者数が若干増えている。この増えた学生数と教育プログラムの教育能力との関連については、今後教育委員会において検討する。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・複数の地域や社会からの要請に応じて、地域枠を調整して学生を受け入れている。

##### 改善のための示唆

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域からの要請に基づき、地域枠を増やしている。具体的には、2023(令和5)年に5県からの要請で合計16名の地域枠を設けている。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料35 2023(令和5)年度学校推薦型選抜試験（地域枠指定校）学生募集要項

### 4.3 学生のカウンセリングと支援

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・「学年主任・クラス主任制度」、「懇和会」などのカウンセリング制度を設けていることは評価できる。
- ・多様な奨学金制度など、学生を支援するプログラムが整備されていることは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各カウンセリング制度の改編などは行っていない。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策のため、「懇話会」の活動はこの数年間（2020(令和2)～2023(令和5)年4月）自粛していたが、2023(令和5)年5月にCOVID-19が5類感染症になったのを期に、「懇話会」活動の活性化を図ったが、県内を始め感染者が存在する中で開催する懇和会は無かったため、今後さらなる活性化の検討が必要で

ある。

奨学金制度については、制度の改編などは行っていない。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

##### **改善のための示唆**

- ・キャリアガイダンスとプランニングをより充実させることが望まれる。

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

オリエンテーション、早期体験学習、内科学総論の中で、キャリアガイダンスとプランニングに関する教育プログラムを提供している。しかし、キャリアガイダンスとプランニングを専門に担当する部署は医学部の中にまだ設けられていない。今後のキャリアガイダンスとプランニングの在り方については、カリキュラム委員会で検討する。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 36 2023(令和5)年度医学部ガイダンス日程【第6学年】
- ・資料 22 2024(令和6)年度第3学年シラバス 内科学総論

#### **4.4 学生の参加**

##### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・教育プログラムの策定および評価に学生が参加している。

##### **改善のための助言**

- ・使命の策定、教育プログラム管理、学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参画すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

教育プログラムの策定に係る委員会(カリキュラム委員会)には、引き続き学生が参加している。教育プログラムの評価に係る委員会(教育プログラム評価委員会)にも学生が参加している。しかし、使命の策定(教育委員会)、教育プログラム管理(教育委員会)、学生に関する諸事項(学生指導委員会)に係る委員会には、まだ学生が参加していない。現在、これらの委員会で学生の参加についての議論を進めているところである。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点(特色)**

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・学生の社会的活動などを把握し、奨励することが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

大学のクラブ活動として医療や福祉に関する活動をしている組織は把握できており、認可している。それらへの支援も行っている。しかし、クラブ活動以外の形での活動は把握できていない。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **5. 教員**

(今後の計画等の総括) 教員の研修、能力開発に向けたFDのさらなる充実について検討している。2024(令和6)年度より教員評価システムを新システムに移行する予定であり(執筆時点で移行済み)、教員の活動実績の認識がより円滑になることが期待される。教員採用における教育の実績の判定方法については今後の課題である。

### **5.1 募集と選抜方針**

## **基本的水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための助言**

- ・教員の募集について教育の実績に関する判定水準をより明確に示すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

現行の教員採用において、教育の実績については推薦・審査で考慮されるもの、業績の判定水準が明示されていない。教育の実績の判定方法について検討する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **質的向上のための水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・使命にある「地域医療への協力」に基づき、「地域総合医療学」と「地域児童精神科医療学」の寄附講座を設置し、地域医療の向上を目的に教員の募集と選抜を実施している。

### **改善のための示唆**

- ・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

「地域総合医療学」と「地域児童精神科医療学」の寄附講座は現在も継続されている。さらに、2024(令和6)年4月より沼津市と連携した寄附講座「麻酔・周術期管理医学」を設置し、地域医療への協力が拡充された。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 37 北里大学・沼津市寄附講座「麻酔・周術期管理医学」設置趣意書
- ・資料 38 寄附講座の設置に関する協定書

## **5.2 教員の活動と能力開発**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・教育分野における教員の活動実績を評価するために「ベストティーチャー賞」と「守礼敬人賞」を設けている。

### **改善のための助言**

- ・個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解し、教育を担当すべきである。
- ・教員の教育能力を向上させるために、研修、能力開発を活性化すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

教員の研修、能力開発のため、2023(令和5)年度は従来から実施している Basic FD、Advanced FD に加え、医学部教授会構成員を対象とした講演会形式の教授会 FD を開催した。教員のカリキュラム全体の理解や教育能力の向上に向けて、FD のさらなる充実について検討している。また、FD における情報交換に加え、教員が教育の学修成果の発表会に参加することにより、学内他部署の教育内容・教育方法を認識し、自らの教育に反映するように促す。

教育、研究、診療の活動実績の医学部が認識する上で教員評価システムが中核をなしているが、2024(令和6)年度より新システムの運用が開始予定であり、Excel データから一括入力、学外からのセキュアな入力、researchmap との連携強化といった利便性の向上が実現され、活動実績の認識がより円滑になることが期待される。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 39 2023(令和5)年度教授会 FD 講演会実施概要

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

各教育研究単位で担当している講義、実習の量に応じた人員配置の見直しを継続的に検討する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし



## 6. 教育資源

領域6.2 臨床実習の資源における「改善のための助言」を受け、CC-EPOCを導入・利用することで、各学生が経験した患者数・疾患分類を把握し、より適切な臨床実習が実施できるようにする。また在宅医療、地域保健を含め臨床実習を広く行える学外医療施設を開拓すると同時に、実習の質を担保するために学内外の指導者を対象としたFDなどの実施を検討する。

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・臨床スキル・シミュレーションラボ（スキルスラボ）、図書館、学生食堂、第5・第6学年を対象とした自習室などを有する充実した臨床教育研究棟（IPE棟）が整備されていることは評価できる。

##### 改善のための助言

- ・なし

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024(令和6)年新医学部棟が竣工し、より一層の教育施設・設備の充実ができる。今後も医学教育の進歩に応じて、本学部の教育施設・設備の充実を図れるように計画的に準備することを計画する。

##### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

#### 質的向上のための水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・Clinical Anatomy Lab、IPE棟などを整備し、学修環境を改善している。

##### 改善のための示唆

- ・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

2024(令和6)年新医学部棟が竣工し、より一層の教育施設・設備の充実ができる。今後も医学教育の進歩に応じて、本学部の教育施設・設備の充実を図れるように計画的に準備することを計画する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **6.2 臨床実習の資源**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための助言**

- ・各学生が経験した患者数・疾患分類を把握し、適切な臨床経験を積めるよう臨床実習施設を整備すべきである。
- ・在宅医療、地域保健などを学ぶ施設を充実させるべきである。
- ・臨床実習の指導者に対するFDを実施するなど、学外臨床実習の基本方針を定め、その質を保証すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

北里大学病院、北里研究所病院および北里大学メディカルセンターの協力を得て、臨床実習統括委員会にて、各学生が経験した患者数・疾患分類を把握できる仕組みを構築する。また、3つの病院群の協力のもと、在宅医療、地域保健などを学ぶ施設を開拓することを検討する。学内外の臨床実習の指導者に対して、FDを実施することを検討する。特に学外の臨床実習指導者には分野別認証評価について説明し、理解と協力を求めるようにする。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **質的向上のための水準**

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

- ・患者や住民からの要請を把握し、臨床実習施設を整備・改善することが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

3つの病院群の協力のもと、意見箱の設置など患者や周辺住民からの要請を把握する仕組みを考えたい。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 6.3 情報通信技術

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・情報リテラシーや個人情報保護に関する講義・実習を低学年から実施していることは評価できる。

#### 改善のための助言

- ・なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

情報リテラシーや個人情報保護に関する事項は日進月歩である。時代に要求されるレベル以上を教育できる仕組みを検討したい。幸い、本学では未来工学部が新設され、未来工学部の協力の下、今年度から「データサイエンス・AI 基礎」の講義も開始した。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 08 2024(令和6)年度第1学年シラバス データサイエンス・AI 基礎

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・学生による電子カルテの記載を実質化し、担当患者のデータと医療情報システムを、学生が適切に利用できるようにすることが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

病院内のスペースと資金の問題があるが、学生専用のPC室などの設置を検討したい。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **6.4 医学研究と学識**

#### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

##### **改善のための助言**

- ・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

学生の学識を学修する基本的なプログラムは準備できている。1年次には一般教育科目として、人文系などの選択科目があるが、全学年を通しての人文、社会学、芸術、語学などを学修できる選択科目が設置されていない。今後は、全学年を通して医師としての教養を高めることのできる選択科目の設置を検討する。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

学生の医学研究を学修するプログラムは準備できている。しかしながら、学生の自主的な医学研究への参加は少数にとどまっている。学生の医学研究への興味を引く、またより参加しやすい教育プログラムを検討したい。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **6.5 教育専門家**

#### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・学内の医学教育専門家がカリキュラムおよび教育技法の開発に関わっている。

##### **改善のための助言**

- ・なし

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

学内の医学教育専門家は残念ながらごく少数であり、今後は後進の育成と医学教育専門家の増員を検討したい。

##### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・教職員の教育能力向上において、学内外の教育専門家が活用されている

### **改善のための示唆**

- ・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

学外の教育専門家を招いての Advanced FD を積極的に開催するなどして、教職員の教育能力向上の機会を増やすことを検討したい。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 39 2023(令和5)年度 教授会 FD 講演会実施概要
- ・資料 40 2023(令和5)年度 教授会 FD 講演会「米国臨床留学の概要」

## **6.6 教育の交流**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための助言**

- ・国内外の他の教育機関との交流をさらに進めるべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

学生は臨床実習において国内外の医療機関で学ぶ機会があるが、臨床実習以外でも、例えば、研究などでも国内外の医療機関で学ぶプログラムを検討したい。また、教職員においても、国内の他の教育機関との交流を図るべく、学内の医学教育専門家を中心に医学教育研究開発センターで交流機会を企画することを検討したい。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### 改善のための示唆

- ・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生は海外の協定校に海外選択実習を行っているが、将来的には、教職員も協定校をはじめとして国外の他の教育機関との交流も図れるようにしたい。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 7. 教育プログラム評価

領域 7.1～4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、学修ポートフォリオの充実、幅広い教員からのフィードバック、長期的な学修成果を評価するための卒業生の動向の把握方法の確立、学生を含む教育に関わる広い範囲の関係者からフィードバックを得るシステムの確立が今後の課題といえる。

### 7.1 教育プログラムのモニタと評価

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・教育関係の各組織が教育課程と学修成果のモニタと分析を開始している。

##### 改善のための助言

- ・カリキュラムとコンピテンシー修得を定期的にモニタする仕組みを確立し、教育プログラム評価結果をカリキュラムの改善に確実に反映すべきである。
- ・カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩、課題の特定と対応の観点から教育プログラム評価を実施すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2020(令和2)年度入学生より導入している、学生個人の「ディプロマ・ポリシーに基づく能力到達度」を可視化した学修ポートフォリオを、教育活動の見直しに活用できるよう、2022(令和4)年

8月末より、科目責任者への公開を開始した。科目責任者は、各ディプロマ・ポリシーの達成度の平均値をチャート表示で確認できるようになった。外部委員も参加する拡大委員会を含めて、教育プログラム評価委員会では、学修ポートフォリオを活用した学修成果の把握を基に、教育プログラムの検討を始めた。現行の学修ポートフォリオは6年分のデータがそろっておらず、不十分な内容ではあるが、今後年次が進んでデータを蓄積し、活用を図っていく予定である。学生の診療参加型臨床実習の更なる推進と技能・態度評価、形成的評価の改善のため、2024(令和6)年度4月よりCC-EPOCシステムを仮導入し、10月より本格導入することを決定した。

個々のDPの達成度(コンピテンシー修得度)を評価してプログラム改善に活かすため、マイルストーンの作成を作成し、IRでモニタしたデータを分析する仕組み作りを検討していく。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料41 科目責任者宛 学修ポートフォリオのチャート表示について
- ・資料42 学修ポートフォリオのチャート表示例
- ・資料43 第48回教育プログラム評価委員会議事録
- ・資料30 第51回教育プログラム評価委員会議事録
- ・資料11 第63回臨床実習統括委員会議事録

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点(特色)**

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・基本理念に基づいて、様々な教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。
- ・学生・卒業生の長期的な学修成果の達成と社会的責任の観点から、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

本学部の使命(基本理念)として挙げている、1.人間性豊かで優れた医師の養成、2.学際領域を含む医学研究の推進、3.国際貢献の推進と地域医療への協力、4.予防医学の推進に基づいて行っている、国際チーム医療演習、早期体験学習、海外選択実習等を含む幅広い教育活動について、定期的かつ包括的な評価を行うため、全学のセンターである高等教育開発センターとも協力関係を構築し、上記教育活動とそれが置かれた状況を評価する指標について検討することを計画しているが、まだ開始できていない。学生・卒業生の長期的な学修成果の達成と社会的責任の観点から、教育プ



プログラムを包括的に評価することについて問題意識をもち、卒業生の動向を把握する方法について、他大学の事例等について情報収集をしている。社会的責任の観点では、臨床実習統括委員会および学生指導委員会で行っているアンプロフェッショナルな学生に対する指導が 2022(令和 4)年度より全学年を対象として行われるようになっている。今後、教育評価プログラム委員会との連携を模索する予定である。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 44 第 42 回教育プログラム評価委員会議事録

## 7.2 教員と学生からのフィードバック

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

- ・学生に対して、授業評価アンケートだけでなく、カリキュラムの主要な構成要素に関するアンケートを系統的に実施し、分析・対応すべきである。
- ・幅広い教員から定期的にフィードバックを受け、教育プログラムの改善につなげるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

講義・実習のコマ数・配置（含む1年間を通して講義の構成）・内容、各科目の評価方法および教育方法（オンライン教材についての意見）など、学生に対して、カリキュラムの主要な構成要素に関するアンケートを実施し、カリキュラム編成の参考にしようとしている。担当科目のカリキュラムの主要な構成要素に関するアンケートで、担当講義・実習の構造（時期、時間）、学生の履修状況、担当科内での調整、形成的評価を含む評価、成果のフィードバックに関する情報を聴取し、教育プログラムの改善につなげようとしている。より幅広い教員からの定期的なフィードバックについては、FD の機会などを検討しているが、今後の課題である。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 01 2023(令和 5)年度カリキュラムに関するアンケート（学生対象）集計結果
- ・資料 02 2024(令和 6)年度カリキュラムに関するアンケート（学生対象）集計結果
- ・資料 13 第 44 回教育プログラム評価委員会議事録

## **質的向上のための水準**

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

### **改善のための示唆**

- ・幅広い教員と学生から得たフィードバックに基づき、教育プログラムを改善・開発する仕組みを構築することが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

必ずしも系統だっているわけではないが、学生および教員のフィードバックをプログラム開発に利用している。今後は、学生および教員からのフィードバックの系統的だった収集方法と、この情報を定期的にプログラム開発に反映させる仕組みを構築する。プログラムの開発に当たっては、医学教育研究部門に、教授を選任した。今後、医学教育研究開発センター、高等教育開発センターとの有機的な協力体制を整備する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 45 医学部附属施設在籍人員表（2023(令和5)年8月1日付）

## **7.3 学生と卒業生の実績**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための助言**

- ・使命と学修成果、カリキュラム、資源の提供の観点から学生と卒業生の実績を分析すべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

6年間の全ての学修成果をディプロマ・ポリシーにあてはめ、達成度を評価する仕組みの構築を開始した。卒後の卒業生のデータ収集については、プログラム評価に資する項目を選択し、拡大プログラム評価委員会で有識者の方々より、ご意見をいただいている。また、同窓会とも協力して、全卒業生を継続的に追跡するためのシステムの構築を検討している。卒前卒後教育のシームレスな

移行を目指し、2022(令和4)年度から医学部教育委員会(卒前教育)と、北里大学病院の卒後教育委員会による合同会議を実施している。専攻医の実績の分析について関連病院経由でアンケート調査を実施すること、卒業生に関して、医学部同窓会と提携し、長期的に進路・業績を追跡評価できる体制を作ること、卒業生の臨床研修、専攻医研修の研修先に、卒後の学修成果(本学のコンピテンシーの達成度)を評価してもらうシステムを構築することを検討しているが、現時点では未着手である。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料30 第51回教育プログラム評価委員会議事録

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点(特色)**

- ・受験科目、入学試験形態別に見た在学中の実績について分析し、関係委員会へフィードバックが行われている。

##### **改善のための示唆**

- ・学生の背景、入学時成績、選抜方法に関して、学生と卒業生の実績を継続的に収集し、分析結果をカリキュラム立案と学生支援に活かすことが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

医学部教育 IR 室、北里大学病院研修管理委員会、北里大学病院卒後教育委員会と連携し、卒業生の評価指標の内容と収集方法について検討する予定であるが、まだ着手できていない。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

## **7.4 教育の関係者の関与**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点(特色)**

- ・なし

#### **改善のための助言**

- ・教育プログラム評価委員会における学生の参画をさらに推進すべきである。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

試験期間中等、教育プログラム評価委員会への学生が出席できないことが課題であったが、現在では、ほぼ毎回、学生は出席し、意見を述べている。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 44 第 42 回教育プログラム評価委員会議事録
- ・資料 43 第 48 回教育プログラム評価委員会議事録

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

##### **改善のための示唆**

- ・教育に関わる広い範囲の関係者からフィードバックを得る機会を拡充することが望まれる。

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

メールなどを応用して、外部委員を含む他の関連する教育の関係者に、カリキュラムに対する他のフィードバックを頻回に求めて集約するシステムの構築を検討する予定であるが、まだできていない。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **8. 統轄および管理運営**

北里大学医学部ではこれまで、「カリキュラム委員会：教育改良計画の立案」、「医学教育研究開発センター：医学教育の研究開発」、「教育委員会：教育の充実・向上」、「臨床実習統括委員会：診療参加型臨床実習の円滑な実施」、「教育プログラム評価委員会：学修成果の評価、教育課程の改良支援」と役割を明確化し、それぞれの関係性が整理・整備されてきた。情報の収集、IR室の有効活用と併せ、統轄および管理運営の最適化に向けてさらなる改革を進める。

## 8.1 統轄

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

- ・医学教育を統轄する組織について、医学部内での位置づけと責務をより明確に示すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本医学部の下に医学教育を統括する各委員会が組織されている。一部委員会は、機能の特殊性を鑑み、医学部長の下または医学部教授会の下に設置されるなど、機能、責務が明確化されている。

また、各委員会の下にも関連する専門部会を設置できる旨が規定され、法改正や制度改革に対して即時性、機動性が確保されている。

今後改組を進め、各委員会の位置づけと責任をより一層明確化する

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・教育に関係する委員会組織において、その他の教育の関係者から意見を反映させることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会には本学部教員に加え、一般養育部教員、医学部第1～6学年の学生代表が委員となっている。また、教育プログラム評価委員会には本学部教員、他学部教員、第1～4学年の学生代表のほか、学外より他大学教員、医療法人理事長を委員とし、広く教育関係者からの意見を反映できる体制としている。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 8.2 教学のリーダーシップ

### 基本的水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための助言

- ・教学のリーダーシップの責務をより明確に示すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

北里大学学則第 54 条に、「本大学に学長及び学部長を置く」ことを規定し、「学長は、公務をつかさどり、所属職員を統督する」こととしている。また、「本大学に副学長、学長補佐並びに学部の学科長又は運営委員、一般教育部に一般教育部長を置くことができる」旨を規定している。

同第 56 条にて、学部長会、学長・副学長会議における協議事項、同第 57 条にて教授会の審議事項について規定し、責務を明確化している。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

### 質的向上のための水準

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

#### 改善のための示唆

- ・医学部の使命と学修成果に照合して、教学のリーダーシップの評価を定期的に行うことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学部長のリーダーシップは任期ごとに理事会において評価されるが、その材料となる毎年の事業業績は、医学教育 IR 室が分析している教育及び学修についての客観的データや情報分析結果も併用しながら策定、評価されている。

医学部における教学のリーダーシップの評価は、毎年実施している教員評価システムによって行っている。(2024(令和6)年度に評価システムを更新し評価項目の見直しを行い、より教員評価の充実を図る予定である。)

センター長、常置委員会の委員長等の評価は、2年の任期ごとに主任教授会の承認を得て学部長が委嘱しており、学部長及び主任教授会において評価されている。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **8.3 教育予算と資源配分**

#### **基本的水準**

##### **特記すべき良い点(特色)**

- ・臨床教育研究棟(IPE棟)の整備や新型コロナウイルス感染症拡大時の緊急修学支援など、教育上の要請に沿って教育資源を分配していることは評価できる。

##### **改善のための助言**

- ・なし

##### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

新医学部棟は2024(令和6)年度竣工、2025(令和7)年度運用開始を予定している。建設計画の策定に当たっては、都度教授会の議を経て、資源配分の適正化を図った。今後は新施設の適正運用を目指し、資源の配分を行う。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

#### **質的向上のための水準**

##### **特記すべき良い点(特色)**

- ・社会の健康上の要請を考慮した「農医連携教育プログラム」や感染症予防教育などに資源を配分している。

##### **改善のための示唆**

- ・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、2023(令和5)年度より農医連携教育プログラムは当該感染症流行前の実施形式に戻る事となった。今後更に内容の検討と充実化を進める。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 46 2023 年度八雲実習 1 班しおり

## **8.4 事務と運営**

### **基本的水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・教育活動を支援するための事務組織が整備されている。

#### **改善のための助言**

- ・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

教学システムの更新（2023(令和5)年度）、入試システムの更新（2023(令和5)年度）、教育用物品を含む購買システムの導入（2023(令和5)年度）、及び各システムの連携が進んでおり、更なる円滑な教育活動支援のため事務組織を補助する環境整備が進められている。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・医学部長の下に医学部自己点検・評価委員会が設置され、学部における管理運営を含む質保証制度である自己点検・評価を定期的実施している。

#### **改善のための示唆**

- ・なし

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

引き続き医学部自己点検・評価委員会を定期的開催し、各年度事業計画に基づく自己点検・評価



を行い、管理運営の質的保証に努める。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・なし

### **8.5 保健医療部門との交流**

#### **基本的水準：適合**

- ・地域社会や行政の保健医療部門や保健医療関連部門と建設的な交流を持たなければならない。

(B8.5.1)

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・相模原市と包括連携協定を締結し、市民大学やシンポジウム、寄附講座を介した住民の健康増進活動を行っていることは評価できる。

#### **改善のための助言**

- ・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

2023(令和5)年の新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、新世紀医療開発センターシンポジウム(市民講座)が再開され、地域住民の健康増進活動に貢献している。今後も定期的な開催を計画する。

#### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料47 第12回北里大学医学部附属新世紀医療開発センターシンポジウム(市民講座)概要

#### **質的向上のための水準**

#### **特記すべき良い点（特色）**

- ・なし

#### **改善のための示唆**

- ・なし

#### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

2023(令和5)年の新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、地域医療診療所での学生実習やサマー

スクール、地域の保健所や薬師事業期間・医療機関等での臨床実習、早期体験学習等キャンパス外での実習は、コロナ禍以前の形式で実施できるようになった。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

### 9. 継続的改良

「改善のための助言」を受けて、医学部教育プログラム評価委員会やIR室の活動をもとに、教育プログラムを定期的に見直して継続的改良に繋げる。医学教育研究開発センターの機能を一層充実させて有効活用するのが今後の課題である。

#### 基本的水準

##### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

##### 改善のための助言

- ・教育プログラムを定期的に評価し、明らかになった課題を継続的に改良すべきである。
- ・継続的改良のために、「医学教育研究開発センター」の機能をさらに充実させるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会を定期的に行い、教育のふりかえりを恒常的にやり改善につなげている。IR室の解析結果や基礎医学部会での議論も教育プログラムの構築や改良に生かされている。基礎研究医の育成を重要視する国の方針や近年のAI技術の著しい発展に沿う形で、基礎研究医プログラムへの参加や新科目の設置にも機動的に対応している。医学教育研究開発センターの会議は定期的に行われ、複数部署の活動情報が共有される中、高大連携や新科目の設置準備などを効果的に進める基盤が作られている。今後はディプロマ・ポリシーの達成度をはかり教育に生かす目的で、卒業生調査への着手も必要と考えられる。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 34 2023(令和5)年度教育 IR 室活動報告